

大津企業景況調査報告書

(第42回)

平成20年 7月～ 9月期 実績

平成20年10月～12月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について

(平成20年7月～9月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業100社にFAX方式による調査

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
建設業	20社	19社	95.0%
製造業	10社	10社	100.0%
卸売業	10社	10社	100.0%
小売業	30社	29社	96.7%
サービス業	30社	29社	96.7%
合計	100社	97社	97.0%

3. 調査期間

調査対象期間は平成20年7月～9月とし、調査時点は平成20年9月9日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数としてDI指数を採用した。DI指数とはDiffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」のDI指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」のDI指数は、3ヵ月前との比較である。

「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」のDI指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

景況感、悪化鮮明に

平成20年7月～9月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数としてDI指数（景気動向指数）を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

景況感は前期までも悪化傾向が強まっていたが、今期は悪化が鮮明になった。この理由は、資源高はやや一服したが、米サブプライムローン問題に端を発する世界的な景気悪化傾向が、大津市の製造業、非製造業にも影響が出てきているものと考えられる。

本調査は9月中旬に起きた米証券大手リーマン・ブラザーズの破綻前に回答されているため、金融危機はその後いっそう深まっているが、そのことは業況判断DIには反映されていない。

□ 業況判断DI（前年同期比）は悪化が続く

「前年同期比でみた業況判断DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、前期の▲25から今期▲37と一段と悪化が鮮明になった。業種別にみると、すべての業種で悪化している。

□ 売上DI（前年同期比）も悪化が続く

「前年同期比でみた売上DI(全体)」（「増加」－「減少」）は、前期の▲18から今期▲31とさらに悪化し売上減少が続いている。業種別にみてもすべての業種で売上減少が続いている。

□ 採算DI（前年同期比）も悪化が続く

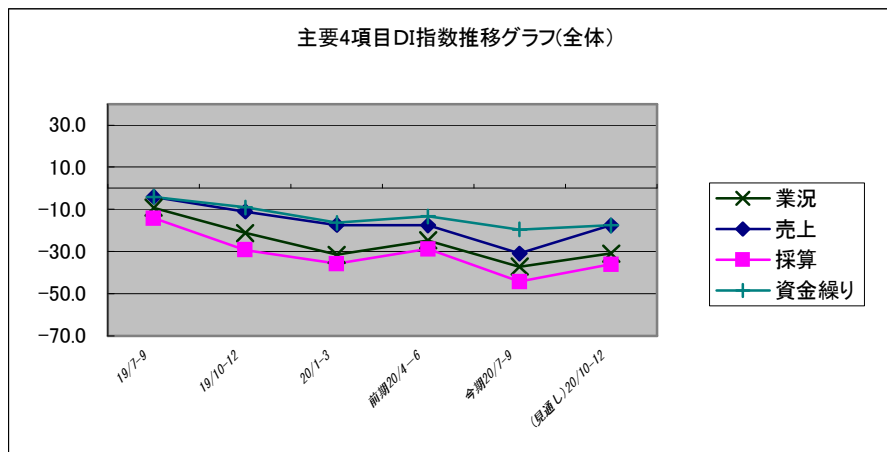
「前年同期比でみた採算（経常利益）DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は▲29から▲44に悪化が続いている。「採算（経常利益）水準」指数（「黒字」－「赤字」）も▲5から▲9に悪化した。業種別にみると、すべての業種で悪化しているが、製造業のみ採算水準がプラス（黒字）を示している。

□ 資金繰りDI（3ヵ月前比）も悪化が続く

「3ヵ月前比でみた資金繰りDI(全体)」（「好転」－「悪化」）は▲13から▲20に悪化が続いている。業種別にみると、すべての業種で悪化している。

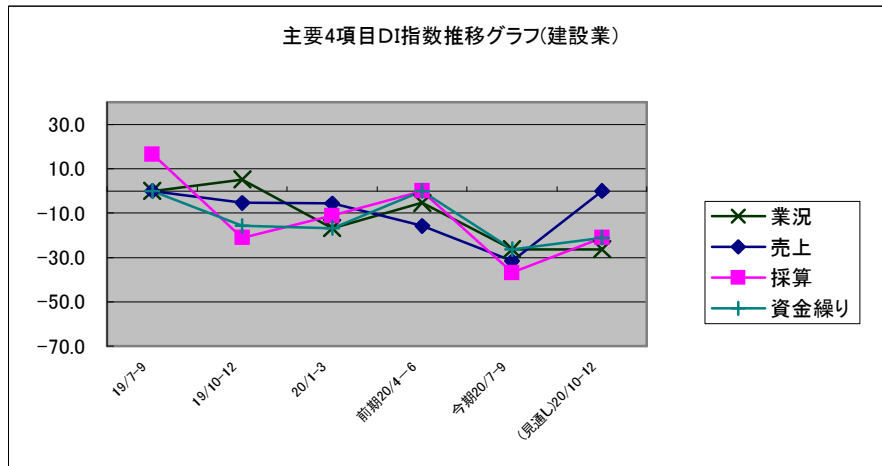
□ 従業員DI（前年同期比）も悪化が続く

「前年同期比でみた従業員DI(全体)」（「不足」－「過剰」）は+7から▲2と過剰に転じた。業種別にみると、建設業とサービス業が不足しているが、他の業種では過剰となっている。



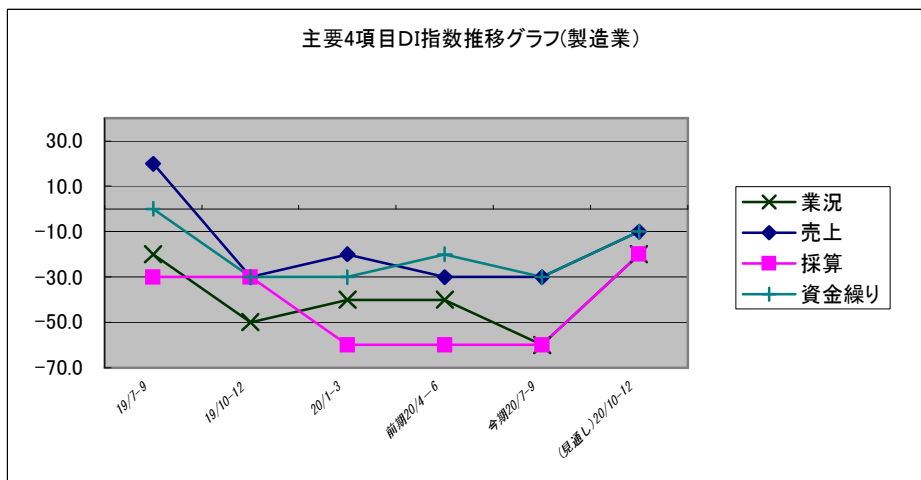
建設業

DI 指数をみると「業況」は前期▲5 から今期▲26 と一段と悪化している。「売上」が前期の▲16 から今期▲32 とさらに減少し、「取引の間合せ」は▲21 から▲37 と減少している。「採算」は 0 から▲37 と大きく悪化した。「採算水準」は+5(黒字)から 0(収支トントン)になった。「従業員」は前期+5 から今期は+11 とやや不足が続いている。「資金繰り」は 0 から▲26 と再び悪化した。



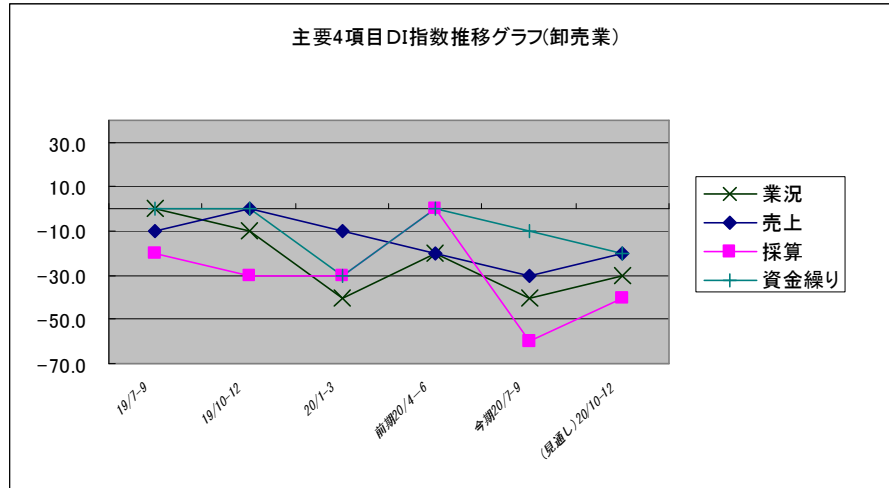
製造業

DI 指数をみると「業況」は前期▲40 が今期▲60 と悪化が鮮明になった。「売上」が前期、今期とも▲30 と減少が続き、「採算水準」は+30(黒字)で推移しているが、「採算」は前期、今期とも▲60 と悪化が続いている。「従業員」は 0(不変)から▲10 と過剰感が出てきた。「資金繰り」は▲20 から▲30 で悪化が続いている。業況の悪化は燃料・原材料価格高騰は一服したが、先行き不透明感から受注の減少や競争激化で採算が悪化してきているためとみられる。



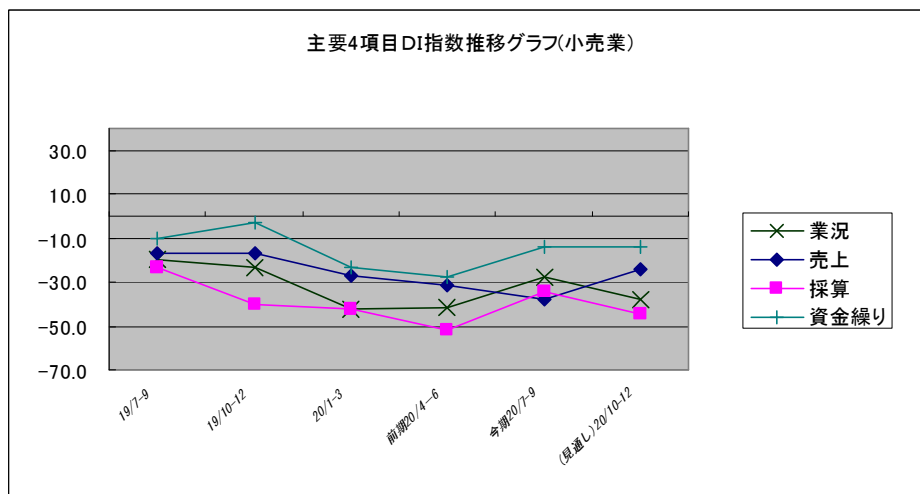
卸売業

DI 指数をみると「業況」は前期の▲20 から今期▲40 と悪化傾向が強まった。「売上」は前期▲20 から今期▲30 と減少が続いている一方、「採算」は前期 0(不変)から今期▲60 と大幅悪化し、「資金繰り」も 0(不変)から▲10 と悪化した。「従業員」は前期の 0(不変)から今期▲30 と過剰感が出てきた。



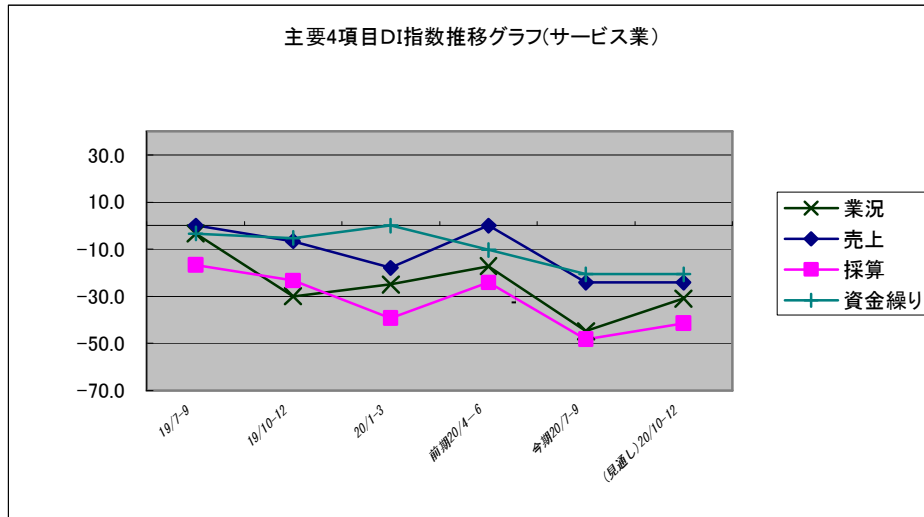
小売業

DI 指数をみると「業況」は前期の▲41 から今期▲28 と悪化傾向が続いている。「売上」は▲31 から▲38 とさらに減少し、「採算」も▲52 から▲35 と悪化が続いている。「取引の問合せ」は▲45 から▲31 と低調に推移している。「従業員」は+3 から▲3 と人員過剰感が出てきた。「資金繰り」は▲28 から▲14 と悪化が続いている。これは、家計が節約志向になって個人消費が落込んでいること等が中小商店の経営を圧迫しているためとみられる。



サービス業

DI 指数をみると「業況」は前期▲17 から今期は▲45 と悪化傾向が強まっている。「売上」は前期 0(不変)から今期▲24 と再び減少し、「採算」は▲24 から▲48 と悪化が続いているためとみられる。「従業員」は+17 から+3 と人員不足感は弱まっている。「資金繰り」は▲10 から▲21 となり悪化が続いている。



来期の見通しについて、本調査では、全体に「業況」は悪化傾向が続くという見方が多い。「売上」は引き続き減少し、「採算」は悪化が続き、「従業員」の不足傾向はなくなりやや過剰気味になるとみている。業種別にみるとすべての業種で悪化傾向が続くが、製造業、卸売業、サービス業では業況の悪化度合いが縮小する見込みである。

しかし、先述したとおり、本調査には9月中旬以降の米国金融危機の影響は反映されていない。その後、金融危機による先行きの不透明感は深まっている。

来期の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合が26%で、特に製造業では80%が計画している。設備投資の中味は設備更新投資が46%と多く、生産力増強投資が18%である。また今後の景気にかかわらず計画通り投資を行うとする企業が68%である。しかし前述の要因から、設備投資についても今後慎重な動きが強まる可能性がある。

(中小企業診断士 田中清行)

(今の経済情勢に対する意見)

今の経済情勢に対する意見を寄せた企業は12社であった。

景況感について

- ・いよいよどん底へ落ちて来た感あり、その上今秋3大SCが開店する。どうなるのかこの上まだ落ち込むのか大変不安である。
- ・物件問合せ反響が低調です。
- ・海外好調 国内不調
- ・テレビのデジタル化により、活発になるだろうと思っています。

原材料高・物価高について

- ・燃料高、材料高
- ・生活物資の値上りにより耐久消費財、土地、住宅の需要は当分減少傾向が続くと予測される。
- ・衣料品を含む耐久消費財の買い控え又はディスカウント系店へのスイッチが進行。
- ・投機による石油の高騰中国市場の成長による原材料の値上り等、我々零細企業も世界市場の動向に直に影響されることを実感しています。地域の商工会議所さんには、目を地域に向け食料の地産地消はもとより、原材料特に木材等（びわ湖の周囲には手を付けられない森林が放置されている）を有効に利用、消費される施策を検討してほしい。（業者間の紹介、斡旋等）びわ湖を囲む山林が美しくなることで湖がきれいになります。これからは木を植えるだけでなく、育て、使うサイクルを作る。

政治情勢について

- ・政治情勢が不安定であり、先行き不透明であり経済情勢もコントンとしている。
- ・政治の安定と国家としての世界戦略を立てて国民が共有するようにしてほしい。

公共事業について

- ・現在の入札制度は設計部署が出した価格を元にコストダウンできるぎりぎりのところまで切り詰め価格を出し入札します。予定価格は専門の人が公に出している資料をもとに弾いた適正価格であるにも係わらず、23～30%カットした価格を最低価格に設定すること自体疑問に思う。頭から3割近くもカットされたところから1次2次下請に出す訳ですから利益など程遠く、どこかで手抜きや廃材の不法投棄などが起こる要因になるのです。安けりゃ良いといった捉え方を改める時が来ていると思います。

その他

- ・●●企業として存続の意味がなくなって来ています。

DI 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し
全 体	▲ 37.1	▲ 30.9	▲ 30.9	▲ 17.5	▲ 44.3	▲ 36.1
建 設 業	▲ 26.3	▲ 26.3	▲ 31.6	0.0	▲ 36.8	▲ 21.1
製 造 業	▲ 60.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 10.0	▲ 60.0	▲ 20.0
卸 売 業	▲ 40.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 60.0	▲ 40.0
小 売 業	▲ 27.6	▲ 37.9	▲ 37.9	▲ 24.1	▲ 34.5	▲ 44.8
サービス業	▲ 44.8	▲ 31.0	▲ 24.1	▲ 24.1	▲ 48.3	▲ 41.4
	昨年の同期との比較		昨年の同期との比較		昨年の同期との比較	
	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見通し
全 体	▲ 9.3	▲ 8.2	▲ 36.1	▲ 34.0	▲ 2.1	▲ 1.0
建 設 業	0.0	0.0	▲ 36.8	▲ 52.6	10.5	10.5
製 造 業	30.0	40.0	▲ 40.0	▲ 10.0	▲ 10.0	▲ 10.0
卸 売 業	▲ 30.0	▲ 10.0	▲ 40.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 30.0
小 売 業	▲ 20.7	▲ 31.0	▲ 31.0	▲ 31.0	▲ 3.4	▲ 3.4
サービス業	▲ 10.3	▲ 6.9	▲ 37.9	▲ 34.5	3.4	6.9
	該当期について		該当期について		昨年の同期との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	7-9月期 動向	10-12期 見通し	7-9月期 動向	10-12期 見通し	7-9月期 動向	10-12期 見通し
全 体	▲ 19.6	▲ 17.5	▲ 15.5	▲ 13.4	▲ 14.4	▲ 12.4
建 設 業	▲ 26.3	▲ 21.1	▲ 26.3	▲ 26.3	▲ 15.8	▲ 10.5
製 造 業	▲ 30.0	▲ 10.0	▲ 10.0	▲ 10.0	▲ 10.0	▲ 10.0
卸 売 業	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 10.0
小 売 業	▲ 13.8	▲ 13.8	▲ 6.9	▲ 6.9	▲ 10.3	▲ 10.3
サービス業	▲ 20.7	▲ 20.7	▲ 17.2	▲ 13.8	▲ 17.2	▲ 17.2
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

大津商工会議所

〒520-0806 大津市打出浜2番1号

コラボしが21・9F

TEL 077-511-1501

FAX 077-526-0795

URL <http://www.otsucci.or.jp/>